

令和2年4月27日

会員の校長先生方へ

全国高等学校長協会会長 萩原 聡
(東京都立西高等学校長)

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、全国に緊急事態宣言が発出され、一層の行動自粛や自制が求められており、学校経営に苦心されている校長先生方に対し、心より敬意と感謝を申し上げます。

世界的に新型コロナウイルス感染症が蔓延し、学校での教育活動において、これまでに経験したことのない事態となっており、学習機会や進路先の保障、心のケアなどに苦慮されていると存じます。私自身、令和元年12月ごろ海外ニュースで新型コロナウイルス感染症の流行についての話題は知っていましたが、国内で今年1月に大型旅客客船での感染拡大が報道されても、まだよそ事のように感じていました。しかし、都内でも感染者が増えはじめ、急転直下、感染拡大防止のため3月から学校が臨時休業となりました。本校では卒業式は卒業生と教職員のみでどうにか行いましたが、今春の入学式は行えていません。また、自宅学習が2か月続いており、学びの保障や進路指導が課題となっています。多くの学校でも同じではなかろうかと思えます。

このような状況下であることから、5月20日、21日に開催予定の第73回全国高等学校長協会総会・研究協議会を中止することにしました。会員の校長先生方に対して、様々な情報提供や協議する年1回の大切な場ではありますが、ご了解ください。

4月に入ってから、全高長事務局には、例えば就職用の調査書の3年次の成績をどう記載したらよいかという質問や、大学入試の総合型選抜や学校推薦型選抜の時期を遅らせることができないかといった要望などが寄せられています。会長として、文部科学省の関係部署に「個別具体的な課題の検討は必要であるが、それぞれの案件ごとにバラバラに考えるのではなく、教育課程の実施や採用選考、大学入試などを全体的にとらえて整合性のある施策を行っていくことが必要である。文部科学省一丸となって早急に対応いただきたい。」ことを伝えてきました。

このことに関して、文部科学大臣が、4月23日(木)に開催された「第6回大学入試のあり方に関する検討会議」(委員として私が出席)の冒頭挨拶において、「(新型コロナウイルスへの対応に関して)社会全体で問題を共有し、同じカレンダーで取り組んでいきたい。就職の選考については経団連とも話している。」と発言しています。また、大学振興課長が「①文部科学省として総合型選抜(これまでのAO入試)、学校推薦型選抜(これまでの推薦入試)について配慮が必要であると考えており、今年度は競技大会、文化活動、各種検定試験、その他学校の様々な活動が少ないことが起きているので、特定の受験生が不利益を被らないように大学に周知していきたい。②一般入試も含めて、入試全体への対応について、例年のスケジュールにとらわれずに対応していきたい。」と話しています。

今年度の全国高校総合体育大会(インターハイ)が中止となるなど、新型コロナウイルス感染症に対する教育活動への対応は、刻々と情勢が動いており、感染状況や判断時期によって、最善の方策が変わっていかざるを得ません。今後も全高長として文部科学省への要請を行い、皆様に情報提供をまいります。先生方におかれましては、引き続き政府の発表などを注視いただき、学校再開後の在り方も含め、設置者にご相談いただき、各都道府県の校長協会として取り組んでいただきますようよろしくお願いいたします。